

平成24年度 輪之内町立仁木小学校 学校評価書

ひろい心もち 豊かに表現できる子

学校の教育目標	ひろい心もち 豊かに表現できる子						
経営の重点	1 子どもの夢を育む教育の推進 2 確かな学力の定着を図る指導の充実 3 暖かさとしんこをもち、子どもに寄り添う共感的指導と教育相談の充実 4 家庭や地域と連携し、信頼され愛し誇れる学校づくり 5 教育のプロとしての自覚を高め、人間性を磨き、指導力を高める自己啓発						
町の重点	評価の観点	教員評価ポイント	保護者アンケートポイント	評価	2学期の成果	3学期以降の課題と改善策	
【学校経営】 全教職員が協力して活力ある学校経営をする。	1	＜特色ある学校＞学習指導要領の趣旨を踏まえ、教職員の共通理解のもと、児童生徒や地域の特色を生かした創意ある教育課程を編成・実施する。	67	学③ 73.3 町② 74.4	B	・米作り活動では、米作り委員会の方々の協力のもと、アイガモ農法に取り組んだ。	
	2	＜危機管理＞児童生徒の安全確保を最優先に考えた学校の環境を整え、家庭・地域社会・関係機関等との連携を強化し、健康被害や事件事故及び自然災害等による被害の未然防止災害に備えた対策を進めるに万全を期す。	71	学② 67.6	B		・破損場所を安全点検簿につけているが、すぐに直すようにした。 ・登下校の様子が心配なので、モニターの振り返りなどを参考にみんなに安全指導に力をいれている。
	3	＜開かれた学校＞開かれた学校づくりを積極的に進め、児童生徒・保護者・地域住民の評価を生かした学校経営を推進する。	71	学① 73.6 町④ 74.2	B	・授業参観や祖父母参観を行うことで、学校に保護者が来校する機会が多くて良い。 ・2か月に1度ほどの頻度で授業参観と学級懇談会等を行い、保護者にもアンケートを実施するなど学校サイドが中心ではあるが、保護者の客観的な意見(気持ち)を取り入れようとする試みが継続されている。	
	4	＜図書館教育＞学校図書館を利用しやすく整備し、図書の計画的利用や読書活動の推進に取り組む。	67	学⑨ 49	B	・2年生では国語の学習で図書館を探検した。本の並び方の規則性を見つけたり、本さがしを通したりして本と親しむことができた。本を借りる際に、選ぶ本の幅が増えた。 ・図書館まつりを実施して、全校に読書量が増えるように啓発活動を行った。 ・図書館祭りやファミリー読書で、子どもたちが本を読もうという意欲につながった。国語の「きみたちは、図書館たんていだん」の学習で、図書館について学習することができた。また、図書館利用として、週に1度は図書館利用を位置づけている。	・図書室が3階にあり、教員もあまり行くことがないため、図書室の利用の仕方があまりよくない。先生がたも、図書室に週に1度は行く習慣をつけると良い。 ・本の整理や担当がついて行かないといけなから、図書館司書がいると便利で利用しやすくなる。 ・本の資料を活用したまとめを行う教科ごとの活動を位置づけて、さらに本を使いこなすような学習活動と本に親しむ姿勢を身に付けたい。 ・バーコード化も進めてコンピューターで管理してもらいたい
【研修】 自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける。	5	＜校内研修＞校内の主題研究を計画的に推進するとともに、教師としての専門性や確かな指導力を高める研修を主体的に行う。	67		B	・各学年1度は授業研を行い、研究を深めることができた。	・来年度の町研に向けて研究の方向性と研究課題の明確化、研究構想、研究会計画を立てる。 ・来年度の発表に向けて、資料の蓄積や、見通しを持った研修が大切である。
	6	＜個人研修＞一人一人が個人研修課題を明確にし、具体的な目標と方策をもち、教師としての資質を高める研修に主体的に取り組む。	71		B	・初任者研修の機会を生かして、多くの示範授業を見せていただき、学ぶ機会を多くいただいた。	
	7	＜情報研修＞分かる授業のためのICTの効果的な活用方法及び情報モラル等、情報活用能力の向上に関わる実践的な研修を行う。	67	町③ 67.7	B		・情報主任が中心になって、情報モラルの授業が各学級ずつめられた。各学級の交流や主任からの実践的な研修の時間を取るよ。 ・情報主任が、先頭につけて情報モラル週間を位置づけることができていた。パソコン室での研修、情報モラルなどの実践的な研修まではできなかった。学期に1度は、行えると良い。例えば、情報モラルを児童に指導するには・・・など。
【教科指導】 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育てる。	8	＜基礎・基本の定着＞指導目標と評価規準を明確にした指導計画のもと、基礎的な知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力を育てる授業をする。	69	学④ 67.2	B	・少人数指導において、支援を要する児童たちに、IT機器を活用したり、具体物を活用したりして、理解を深めることができるよう意図して指導した	・思考力は考える時間を設けることで取り組めているが、表現力を高めるような手立てが少ないので、朝のスピーチタイムなどを活用していくようにする。
	9	＜個に応じた指導＞指導内容の系統を踏まえ、一人一人の学力や学習状況に応じた多様な指導方法や体制・評価を工夫改善してきめ細かな指導をする。	74	学④ 67.2	B	・支援を要する子には、そばで指導をするよ心がけた。しかし、支援を要する子のやる気が有る、無しでなかなか難しいところもある。	・学習支援員の先生に個別指導をしていただけたが、より指導の充実を図るために事前に打ち合わせをする必要を感じた。
	10	＜学習集団＞「聞く・話す・書く」の基本的な学習姿勢を確実に身につけ、学習集団の質を高める指導を充実する。	79	学④ 67.2	B	・話し手は聞き手と目が合うまで待ち、呼びかけることができた。聞き手も話し手が気持ちよく話せるように体を向け、アイコンタクトを意識できた。書くスピードも上がり、たくさん書けるようになった。 ・学校として、3つの「きく」の提案は、子ども達にとって分かりやすく良いものになったと思う。 日記指導なども広めていけたことは良かった。少しずつではあるが聞くことができるようになってきた。じっくり聞いて、じっくり考えることがもう少しできると良かった。	・高学年が少しずつ落ち着いてきたように思う。 ・3学期さらにまとめの時期なので、落ち着いた学習環境を作る。全校体制で、見守り、見届け、6年生を中学校へおくりたい。
【道徳教育】 自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる。	11	＜全教育活動を通じた道徳教育＞道徳の時間と他の教育活動との関連を明確にし、全教育活動を通して道徳教育を充実させる全体計画や指導計画の工夫改善をする。	64	学⑧ 66	B	・社会見学での電車内のマナーや、かけ算九九をあきらめないなど、計画的に題材を配置できた。 ・生活の中でつながるように題材を選ぶようにしている。行事と関わらせながら指導することができた。	・道徳的価値の高まりはあったが、他の教科のつながりはあまり意識してできなかった。 ・他の教育活動との関連を図った全体計画及び指導計画は作成していない。何もかもは無理である。計画に沿った指導でなく、そのときどきに起こったことを見て、自分の感覚を信じ、そのとき感じたことを道徳的に指導している。
	12	＜道徳の時間＞道徳の時間のねらいを明確にし、児童生徒が道徳的価値に気付いたり、自己を見つめたりすることができる指導過程や指導方法を工夫する。	71		B	・終末に、自分を振り返る時間を作ることで、生活とつなげて道徳的価値を高めることができた。 ・年間を見通して、その時期に合わせた価値を指導する計画を作成し、実践している。 ・自己の振り返り、自己をみつめる時間を意識的に十分な時間をとっている。	・今後は、他の教科を生かした道徳の授業作りを取り組んでいく。
	13	＜心を育む体験活動＞あいさつ、美化、ボランティアへの取組を、学校・家庭・地域社会が一体となって推進する。	60	学⑦ 59.4 家力 73.6	B	・長期休暇に地域での奉仕活動があって良いと思う。 ・黙々掃除のキャンペーン期間は、掃除に向かう姿が改善した。 ・さなえ部会の方の見届けで、黙々掃除の徹底がされてよかった。	・黙々掃除が持続できるように工夫が必要である。3学期もときどき掃除の強調週間があるとよい。 ・挨拶に関してマンネリ化しないような工夫がある。地域でのあいさつについて向上できる取り組みが必要である。 ・挨拶運動で外に運営委員が立っている場等では挨拶ができるが、自分から挨拶ができないので工夫が必要である。
【小学校外国語活動】 外国語を通じて、コミュニケーション能力の素地を養う	14	＜指導計画・指導体制＞一人一人にコミュニケーション能力の素地が養われるよう、指導計画に基づき指導目標と指導内容を明確にして取り組む。(小)	67		B		
	15	＜指導過程＞学級担任が主体となり、積極的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを体験する活動を工夫する。(小)	67		B		・ALTの先生と打ち合わせがなかなかできなかった。3学期は打ち合わせをする。 ・学級担任が主体でなかった。オサ先生にお願いするところが多かった。
【総合的な学習の時間】 探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。	16	＜全体計画・指導計画＞小・中学校の連携を通して、学習のねらいや内容、他教科との関連等を明確にした全体計画や指導計画を工夫改善する。	62		B	・郡の総合部会で中学校区ごとにカリキュラムの交流をし、重複する箇所等を確認した。	・学習のねらいの全体計画、指導計画を作成する時間などない。やることを精選する必要がある。
	17	＜探究的な学習＞身に付けた知識や技能を相互に関連付け、総合的に働かせるよう、体験活動と言語活動を意図的・計画的に設定し、探究活動を展開する。	74		B	・生活科でペア交流を通して、自分のめあてを明確にし、めあてに向かって取り組めた。授業の終わりにめあてのふりかえりとしてペア交流を位置づけた。 ・国語で身につけた話し方や話型を他の場面でも生かしている。 ・生活科では体験を通して気付いたことを話す活動を大切にしたい。	総合的な学習のまとめを、工夫するようにする。

町の重点	評価の観点		教員評価 ポイント	保護者アン ケートポ イント	評価	2学期の成果	3学期以降の課題と改善策
【特別活動】 所属感を高 め、よりよい 生活や人間 関係を築こう とする自主 的・実践的な 態度を育て	18	<自発的・自治的な活動と指導計画>自己の生き方について考えを深める指導計画を工夫し、児童生徒の自発的、自治的な活動を位置付け実践する。	67	家エ 70.6	B	B ・集会などで発表した児童には学級で拍手をしてがんばりを褒めている。係活動の反省を定期的に行っている。	・毎月の特別活動の内容を職員会で提案するのは分かりやすく良いと思うが、実践できていないのが今後の課題と思う。
	19	<評価>集団や社会の一員としての自覚を深めるため、児童・生徒会活動や学級活動等において、個々の活動状況を見届け、一人一人のよさや可能性を認め励ます。	71		B		
【生徒指導】 共感的な理 解に徹し、自 己指導能力 を育てる。	20	<生徒指導（教育相談）体制>いじめ問題や不登校・暴力といった生徒指導上の諸問題に対して、未然防止や早期発見に努め、組織的に対応を図る。	83 A	学⑤ 62.3 町5 57.9	B	B ・教育相談週間が決められ、学級担任や生徒指導の先生を中心に早期対応ができています。 ・全校一斉に「仲間アンケート」に取り組むことは意味があるものになったと思う。アンケートを保管することも良い。 ・教育相談週間を位置付け、アンケートをとり、記入があった子どもの話はすぐに聞く体制がとれている。 ・児童からの相談については、詳しく話を聞いて対応している。良くない言葉を聞いたときには、その時、その場で指導する。また、教育相談週間を位置づけ、1ヶ月に1度は「いじめアンケート」をとったり、相談を受けたりすることができた。絶対に許さない毅然な態度で指導している。安心して発言できる授業作りのために一人一人の意見に対して反応することを指導した。	・教育相談週間が徹底され、子どもたちの思いを取り上げることができてきている。すぐに対応している。さらに、子どものよさを見つけながら、アンテナをしっかりとって、早期発見に努めたい。子どものいつもと違うサインにすぐ気がつくことができるようアンテナを高くし、対応したい。
	21 ◎	<学年・学級経営>一人一人が個性を発揮し、存在感・所属感を感じるよう児童生徒のかかわり合いを大切にしながら学級経営と授業を充実する。	74	学⑤ 62.3 町5 57.9	B	B ・音楽では、できるだけ多くの子にピアノ伴奏ができるように位置づけた。様々な活動において、一人一人が役割をもつことで、力を発揮できた。 ・一人一人の発言に反応することを授業に取り入れ、安心して発言できる授業作りを行った。	さらに、一人一人の役割を明確にし、所属感を高めていきたい
	22	<生命尊重・倫理観・規範意識>命の大切さや基本的な倫理観・規範意識を体得できるよう、繰り返し指導する。	81 A		B	B ・問題を取り上げて、継続的に投げかけてきた。道徳や短学活など機会をとらえながら指導したり、話したりしている。	・トラブルによるけがが多くある。軽いけがですんだときにも、1つ間違えば大けがにつながることを話し、お互いを大切にできるようにくり返し指導し続けたい。
【進路指導】 自己の生き 方を考え、主 体的に進路 を選択できる 能力や態度 を育てる。	23 ◎	<勤労観・職業観>学級活動における進路指導と関連させた体験活動（職場体験、係活動、清掃・奉仕活動など）を通して、働くことや奉仕することの尊さや喜びを味わえるよう指導・援助する。	64		B	B ・高学年は、体を使うことは割と頑張っていると思う。やりがいや褒めてもらう喜びを感じていると思うが、奉仕の心や思いやり等お互いの活動を認めるなど心の面の指導を充実させていくことが大切であろう。奉仕することの尊さ、喜びは感じているようだが、それが進路指導と関連していない。	
	24	<ガイダンス>一人一人の進路希望や能力・適性を生かすことができるよう、個に応じた適切なガイダンスを行い、進路学習や進路相談を充実する。（中）					
【健康教育】 運動に親し み、進んで 健康で安全 な生活を営 む態度を育 てる。	25 ◎	<保健・安全・食>児童生徒の生活習慣や心身の健康状態を的確に把握するとともに、他の教育活動との関連を踏まえて「保健・安全・食」に関する指導を工夫改善する。	69		B	B ・栄養士の先生が、回ってくれるので、子ども達にとって栄養や食について知る機会ができてよい。 ・肥満傾向の児童には、保護者と連携しながら個別指導を行うことで、改善がみられたが、さらに、本人と保護者の意識を高めていけるよう工夫する。 ・祖父母の給食試食会で、給食を實際食べ、栄養職員の講話を聞いていただいたことで、多くの方が、おやつ選び方や食事の味付けについての見直し考える機会となった。今年度の感想をもとによりよい会ができるよう工夫する。 ・食の有り難さ、大切さを日々指導し、残さず積極的に食べる指導を行い、学級の残量は0になった。	・欠席する子が少ないので良いと思う。 ・寒くなると、手洗いがいい加減になる傾向がある。指先に水をつけるだけの子、ハンカチを持たない子を見かける。手洗い場での見届けが必要。
	26	<運動推進>児童生徒が課題や願いをもって積極的に体カつくりに取り組み、日常的な運動実践の場や機会を充実する。	79	学⑩ 63.6	B	B ・足跡が残る取り組みは、成長の様子が分かって良いと思う。さなえの時間にマラソンや大縄を行った。 ・各学級での大縄が取り組まれ、外に出て目当てに向かっている姿がよい。 ・みどりの時間は、外に出るということが徹底できた。遊びの種類が少ないので教えていく必要もある。	・みどりの時間は、外に出るということを徹底することが必要。若い先生方が、外に出て一緒に遊んでいる姿が素晴らしい。 ・みどりの時間、高学年で校内にいる姿がみかけられる。チャレスポの練習などが始まる、全員が外に出て練習をするため、このような取り組みに参加することは続けていくと良い。 ・2月から3月に向けて、新たな目当てを考えておくとよい。マラソンをどう取り組むか。 ・高学年では、さなえマラソンに真剣に取り組む姿が少ないので、今後の課題である。 ・さなえの時間の充実、みどりの時間の外遊びの奨励
【特別支援教育】 一人一人の 教育的ニ ーズに応じ、自 立し社会参 加するための 基盤となる 力を育てる。	27	<校内支援体制>全教職員の共通理解のもと、特別支援教育コーディネーターを中心に校内支援体制を整備し、関係機関との連携を図る。	64		B	B ・生徒指導事例研や日々の児童の様子を交流し、関わり方を相談・統一し共通理解のもとで、対応できたと思う。	・校長先生、教頭先生、教務、養護教諭とフリーの先生の協力で、Y児に関わっていただけた。さらにどう支援していくことがよいか、全職員が共通理解をし、同一歩調での指導、支援をすすめる。
	28 ◎	<個別の支援>保護者や関係機関との連携のもと、一人一人の教育的ニーズに応じて、教育支援計画や個別の指導計画を作成し、指導内容や方法、教材教具の工夫に努める。	64		B	B ・職員会での、個別支援への指導の在り方の研修が、勉強になった。支援の先生とも指導について話し合う時間がもてなかったがノートで様子を把握することができてよかった。	・連絡ノートで、家庭との連携を取りながら、共通理解をし、指導をすすめてきた。 ・通常学級にいる支援の必要な子からの支援計画及び指導計画を今年度中に作成しておくことよい。 ・一人ひとりの指導計画を作成する時間などいつあるのか。何もかもはできない。頭の中で把握し、実践している。
	29	<交流及び共同学習>特別支援学級等と通常の学級の児童生徒との交流及び共同学習を計画的に行い、社会性や豊かな人間性を育てることができるよう指導の充実を図る。	67		B	B ・交流学級の子に対して、優しい心で接し、必要な時には手助けしてあげることができていた。 ・体育や生活科、音楽などの時間に一緒に活動し、交流することができた。	・交流学級と通常学級の担任と連携をとり、交流する場、時間を考えてきた。交流学級の子らにとっても有意義になるようさらにねらいを明確にしていく。 ・通常学級の教室に入りづらいと感じているため、呼びに行くなど少しでも入りやすいようにしたい。
【人権教育】 不合理な差 別をなくし、 人権を尊重 する温かい 人間関係を 醸成する。	30	<人間関係の醸成>互いのよさを認め合う、温かく思いやりのある人間関係を醸成する指導を工夫する。	74	学⑧ 66	B	B ・「よいこと見つけ」を行い、お互いのよさを認め合う活動を学年で行った。	・特別支援学級の子らの態度も問題があるのかもしれないが、同じ仲間としての関わり方ができていない子がいる。言葉遣いなど思いやりの心を育てよう、日頃から子どもたちに関わりたい。
	31 ◎	<いじめ・差別の解消>いじめや差別を許さない学校・学級つくりに向けて全校が一丸となった取組を継続的に行う。	79	学⑤ 62.3 町5 57.9	B	B ・ほかほか言葉の実践。人権の劇を見て、全校児童に指導したこと。なかまアンケートの実施によりいじめの事前防止、共通意識で対応できた。 ・月1回（1週間：5日間）、教育相談の時間を朝活動の時間に位置づけ、「なかまアンケート」の確実な実施とその処理過程について、流れをつくり、早期発見・早期指導等に努めた。	・いじめや差別は許されないという指導がなく、人を馬鹿にするような発言をする児童がいる。これだけは絶対に許してはならない。
【情報教育】 教育の情報 化を推進す るとともに、 児童生徒の 情報活用能 力を育成す る。	32 ◎	<情報活用能力>情報活用能力における児童生徒の実態を把握し、段階表に基づいた系統的な指導をする。	67	町3 67.7	B	B ・かけ算九九の習熟のため、ワークスペースのパソコンを多く使用した。電源の入れ方、切れ方、キーボード入力など、基本的なことを指導できた。 ・段階表に即して各学年で指導されるよう、「スキルチェック表」を作成し、啓発した。 ・段階表に基づいて、マウスの使い方や、パソコンの立ち上げ方などを学習した。	・パソコン室の活用があまりされていないような気がする。 ・パソコンを使うことが特別ではなく必要に応じて使うことができる子どもも育てるための手立てが必要である。
	33	<情報モラル>情報モラルについて、意図的・計画的な指導を行う。	69	町3 67.7	B	B ・情報モラル週間に、計画的に行った。岐阜県のパンフレットを用いて、指導した。 ・情報主任が中心になってすすめられた。「情報モラル週間」を位置づけ、確実に指導されるようにした。	・携帯電話も身近になっているので、常日頃指導を進めていくことが大切だと思う。
【ふるさと教育】 「ふるさと輪 之内」に学 ぶ態度と輪 之内を愛し、誇 りに思う心 を育てる。	34 ◎	<ふるさと学習>地域を知り、理解するための活動や地域人材を活用した授業を展開するなど、地域に根ざしたふるさと学習を積極的に推進する。	69	町4 74.2	B	B ・生活科の学習で町の図書館に行くことができた。本の借り方や返し方を学ぶとともに、公共施設の利用についても学んだ。読み聞かせをしていただくこともできた。 ・遠足で、地域の方の仕事への努力と工夫を学んだ。	
	35	<国際交流>中国（小）やカナダ（中）との交流活動を充実する。	67		B	B ・低学年はミナモダンスを運動会や炬火リレー応援などの行事で踊ることを通じて意識できたのではないかとと思う。 ・のぼり旗づくり、ミナモに絡ませた運動会の種目、炬火リレーやミナモダンスを積極的に、地域の一員として「国体をもりあげよう」よする態度が育った。	・手紙の交換やインターネット電話などを通してもっと交流できるとよいと思う。
	36	<ぎふ清流国体>「ぎふ清流国体」「ぎふ清流大会」及び関連事業を通して、「ふるさと岐阜」「ふるさと輪之内」への誇りと愛着をもつ地域社会人としての自覚を深める。（H24限定）	81 A		B		

町の重点	評価の観点	教員評価 ポイント	保護者ア ンケート ポイント	評価	2学期の成果	3学期以降の課題と改善策
※評価欄の記号	評価基準	A：実践し、効果をあげることができた。				
		B：実践し、一応の効果をあげることができた。				
		C：実践し、僅かだが効果をあげることができた。				
		D：実践したが、効果をあげることができなかった				